

2020 年度事業報告書(案)

(2020 年 7 月 1 日～2021 年 6 月 30 日)

財団事業(定款第4条)

1. 高齢者の医療・福祉に関する調査・研究・研究助成及びその成果を活用したプログラム等の開発・提供並びに人材育成
2. 地域医療・福祉の事業モデルの啓発及び地域医療・福祉に貢献する団体・個人の表彰
3. その他当法人の目的を達成するために必要な事業

【運営方針】

1. 地域共生社会の実現を目指し、地域包括ケアシステムの構築に貢献する。
2. 医療・看護・介護並びに福祉の現場の方々の意見を財団事業に活かすとともに、支援や各種取組みの啓発を行う。
3. 地域共生社会において、医療・看護・介護並びに福祉を担う人材の育成に貢献する。

上記財団事業目的、運営方針を踏まえ、研究開発・啓発・人材育成を有機的に連携させながら下記の事業に取り組む。

1. 研究開発

(1).統合ケアマネジメント事例検討会

2014年9月から、「国立社会保障・人口問題研究所」などとの共催で開始しました本事例検討会は、2017年度より、当財団主催(座長:川越雅弘 埼玉県立大学大学院教授)で開催しています。医療・看護・介護に関わる各専門職が、地域性や人間関係にとらわれることなく積極的な発言ができることを会の基本方針として、2ヶ月に1回の頻度でZoomによるオンラインにて開催して参りました。2020年度に関しては、現場でコロナと日々戦いながら仕事をされている方々に事例提供をお願いしている関係上、コロナの感染状況によっては予定通り実施することが難しく2020年は10月、12月、2021年につきましては2月のみ実施となっています。感染状況を鑑みながら、今後も事例発表者・各事業所の負担にならないよう開催時期を調整し、実施していく予定です。また、過去に実施しました事例検討のポイントを現在まとめています。まとめたものを座長の川越先生と今後どのような形式で公開していくかをと検討していきます。

(2).「人工知能学に基づく「認知症見立て知」の共学・共創システムの開発と実証評価」研究

2018年度から、当財団と一般社団法人みんなの認知症情報学会ならびに静岡大学は、「人工知能学に基づく「認知症見立て知」の共学・共創システムの開発と実証評価」研究委員会(委員長:竹林洋一(一社)みんなの認知症情報学会理事長)を共同で立ち上げました。超高齢社会を迎えている中、専門職はもとより、広く地域社会の人々の認知症の見立て能力が向上することは、地域包括ケアの構築に資するものと考えています。

2020年度は、学習の内容を高度化した「アドバンスコース」を6月、8月、10月、12月、2月、3月の6回実施し、毎回15人～24人が参加しました。2019年度までは精神科医の診療ロジックを理解しつつ、医師が必要としている情報を収集するために必要な専門的な知識を習得することを試行しました。2020年度は、参加者が関わった事例を活用した見立て塾の実践や、要因と症状の関係マップを作成しながら、どのような対応方法があるかを考えるシナリオ検討を通して、今までに習得した診療ロジックや知識を実践的に活用するための方法を検討しました。参加者から事例を集めて検討する方法は、ケースの質が検討に大きく影響するという課題が明らかとなり、2021年度実施予定のケースを創作するというアイデアにつながりました。

一方、シナリオ検討の実践によって、複雑な要因が絡み合った実際的なケースへの対応方法を、参加者がどのように考えたのかを可視化することができ、ケースに対する意味解釈の構造設計が進みました。2021年度はこれらの研究実績を踏まえて、ケース創作活動を通して参加者(学習者)の理解度を深め、ケースの蓄積と学習への活用を加速させる仕組みを開発し、その効果を検証していきます。

さらに、本プロジェクトに参加する学習者が、自らが講師となるために自施設で講習を受けながら「見立て」の知識を広げていく「講師養成プログラム」を、3月から計8回、遠隔システムにより実施し、毎回16人～24人が参加しました。本プログラムの目的は、発展途上である「見立て知」をさまざまな経験や専門的視点からアップデートさせるためのコミュニティを形成し、「見立て」力を持ったエバンジェリスト(evangelist:啓発を行う人)を広げることにあります。本プログラムにおいて、反転学習(事前に動画等予習をし、授業では演習や確認テストなどを通して理解を深める学習方法)、および自動採点機能による自己学習支援の仕組みを導入し、自己学習、協調学習を組み合わせたハイブリッド型のe-learningシステムを開発しました。2021年度は、この実践の課題を整理した新たな仕組みを開発・実践するとともに、今回の実践や新たな実践の学習者への効果を検証していくことを予定しています。

研究成果は以下の論文で公表するとともに、2018年度～2019年度の研究実績等を報告書としてまとめ、2021年4月に当財団ホームページに掲載しました。

(2020年度発表論文)

・査読付論文

現在2本投稿中

・博士論文

神谷直輝:多職種協働の認知症ケア向上のための遠隔協調学習支援システム構築に関する研究

(3).実証開発プロジェクトの展開

2020年度は、財団が主体となつての社会的処方に関する実証開発プロジェクトには着手しませんでした。理由は、2019年度の日本版「社会的処方」のあり方検討事業に関わった研究者が、それぞれの地域・母体(名張市・宇都宮医師会などなど)で、社会的処方に関する各種

事業の検討に着手していたため、それら事業との重複を避けるため、その推移を見極める必要があったことによります。

なお、2020年度は、「社会的処方白書」を発刊しました。2018年度の研究成果(含む、英国出張)を踏まえ、特に医師など医療関係者向けに、社会的処方の概念整理、各種事例紹介など行いました。(本事業の代表世話人:堀田聰子 慶應義塾大学大学院教授、世話人:長嶺由衣子:東京医科歯科大学医学部附属病院総合診療科特任助教が編集を務め、執筆者メンバー及び事務局が企画・制作しました)。

2.啓発

(1).看護・介護エピソードコンテストの実施

看護・介護に関わっておられる方々の貢献を称えるため、このエピソードコンテストを通じて、その活動を広く社会に発信しています。当財団では、地域包括ケアシステムの普及には、地域住民の理解、多職種間の相互理解、そして、将来にわたり人材の確保が必須であり、看護・介護に携わる方々の貢献を世間に広く伝える事で、その理解や人材確保が期待できると考えています。実例報告、エッセイなど形式を問わないことにより、看護・介護に関わる幅広い方々の参加を促していきます。

選考は、(a)当財団事務局で1次選考(応募された作品が応募要項・資格等に合致するか)を行い、(b)医師、訪問看護師、医療ジャーナリストの3名の選考委員からなる選考委員会にて、大賞1編、優秀賞3編を選考しています(選考委員特別賞を設ける場合もある)。選考に際しては、選考委員が作品ごとに評価項目を点数化したうえで協議を行い、選考しています。第7回目にあたる今年度の応募総数は132編でした。

選考結果は、以下のとおりです。

- ・募集期間:2021年2月1日～2021年5月6日
- ・テーマ:「伝えたい!わたしの看護・介護エピソード」
- ・応募総数:132編(前年度145編)
- ・大賞1編(副賞:30万円)、優秀賞3編(副賞:各10万円)、選考委員特別賞2編(副賞:各5万円)を選定

例年7月に、財団シンポジウムとともに表彰式を行っていましたが、今年も新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止としました。2021年6月に受賞者、受賞作品、選考委員長の講評を、当財団のホームページに掲載し公表しました。また、2021年8月発刊の当財団広報誌にも、「受賞者の言葉」とともに掲載予定です。

(2).広報誌「オレンジクロス」の刊行

「地域包括ケアシステム」のあり方の調査・研究、開発活動を通じて明らかになった研究成果や様々な情報を、年2回広報誌として広く社会に提供しました。

- ・発行日:2020年8月1日、2021年2月1日
- ・発行部数:約600部

- ・主な配布先: 当財団事業関連者、学識経験者、医療・看護・介護・福祉関連者など

(3).公開シンポジウムの開催

地域包括ケアシステム構築等、当財団事業に関するテーマを幅広く取り上げ、広く社会に発信するシンポジウムを以下の内容でオンラインにより開催しました。

- ・開催日 : 2021年5月19日(水)19時~20時30分
- ・運営方法 : オンライン開催
- ・テーマ : COVID-19で浮き彫りに「ケアするプロの働きがいと悩み」
—米国の取り組み—
- ・演者 : メディカルジャーナリスト 西村由美子氏
Caring Accent(ケアリング・アクセント)主宰、PhD, CPXP(Certified Patient Experience Professional:米国) 近本洋介氏
- ・参加者数 : 45人

なお、シンポジウムの概要は広報誌第11号(2021年8月発行)に掲載します。当日のシンポジウムについて動画によりホームページに掲載予定です。

(4).「オレンジクロスセミナー」の開催

賛助会員のみならず一般の方々を対象として、当財団事業目的に関するテーマを取り上げ、その課題を、参加者とともに深堀していく小規模のセミナーを開催しました。

(第1回)

- ・開催日 : 2020年12月11日(金) 19:00~20:30
- ・運営方法 : オンライン開催
- ・テーマ : ポスト・コロナの医療・介護
- ・演者 : メディカルジャーナリスト 西村由美子氏

(第2回)

- ・開催日 : 2021年4月16日(金) 15:00~17:00
- ・運営方法 : オンライン開催
- ・テーマ : 福祉の心の定量化
- ・演者 : 国立研究開発法人 産業技術総合研究所 招聘研究員 岡本茂雄氏

(5).シリーズ在宅ケアを考える(小冊子)の発刊

今年度は発刊しませんでした。

【管理部門】

1. 研究体制の構築

当財団では、①当財団の事業目的が広範囲 ②事業予算規模の両観点から、個々の研究を担う常勤研究者を雇用していません。個々の研究事業ごとに「研究委員会」や「勉強会」を立ち上げ、それらの運営を担う非常勤研究員を採用し、研究事業を遂行しています。現在、3研究

委員会、1 検討会で非常勤研究職員を 1 名採用しています。非常勤職員による弾力的な業務運営により、効率的な研究体制を構築しています。

2. 財団運営

当財団の法人形態は一般財団ですが、可能な限り公益財団に準じて運営を行いました。原則月に 2 回、理事長と全事務職員で定例打合せを実施し、業務遂行の確認、情報共有を図りました。公益財団法人のガバナンス・コードも踏まえながら、適切なガバナンスの運営を心がけています。

なお、2020 年 2 月の新型コロナ感染拡大以降、職員はできる限りテレワークや時差出勤としました。各種打合せはオンラインにより実施しています。

3. 理事会・評議員会の開催

公益認定申請結果について、早期に理事・評議員・監事に説明するために、3 月に理事会・評議員会をオンラインで開催しました。同時に 2021 年度事業計画書・収支予算書についても決議しました。

(1) .2020 年 8 月 13 日・第 1 回理事会(決議の省略)

決議事項:2019 年度事業報告及び附属明細書承認の件、2019 年度計算書類(貸借対照表及び正味財産増減計算書)及び附属明細書並びに財産目録承認の件、評議員会の日時及び場所並びに目的である事項等の件

(2) .2020 年 8 月 31 日・定時評議員会(決議の省略)

決議事項:2019 年度事業報告及び附属明細書承認の件、2019 年度計算書類(貸借対照表及び正味財産増減計算書)及び附属明細書並びに財産目録承認の件、理事選任の件

(3) .2020 年 8 月 31 日・第 2 回理事会(決議の省略)

決議事項:理事長選任の件

(4) .2021 年 2 月 1 日・第 3 回理事会(決議の省略)

決議事項:公益認定申請取下げの件

(5) .2021 年 2 月 11 日・第 2 回評議員会(決議の省略)

決議事項:公益認定申請取下げの件

(6) .2021 年 3 月 30 日・第 4 回理事会

開催場所:オンライン

決議事項:評議員会の日時及び場所並びに目的である事項等の件、2021 年度事業計画

書及び収支予算書承認の件
 報告事項:職務遂行状況報告の件
 出席等:決議に必要な出席理事の総数5名、出席8名、欠席0名、監事出席2名

(7) .2021年3月30日・第3回評議員会

開催場所:オンライン
 決議事項:2021年度事業計画書及び収支予算書承認の件
 報告事項:職務遂行状況報告の件
 出席等:決議に必要な出席評議員の総数4名、出席6名、欠席0名、監事出席2名

4. 倫理審査委員会の開催

2020年度の倫理審査事項はありませんでした。

5. 評議員・理事・監事(2021年6月30日現在)

(1) .評議員 6名 (敬称略/五十音順)

氏名	所属
村上 美晴(設立者)	セントケア・ホールディング株式会社 代表取締役会長
伊藤 伸一	社会医療法人大雄会 理事長
亀口 政史	亀口公認会計士事務所 所長 公認会計士
鳥飼 重和	鳥飼総合法律事務所 代表弁護士
西村 周三	京都先端科学大学 経済経営学部 教授 医療経済研究機構 特別相談役
日野 正晴	日野正晴法律事務所 弁護士

(2) .理事 7名 (敬称略/非常勤理事五十音順/※は常勤)

氏名	所属
※村上 佑順 (代表理事)	一般財団法人オレンジクロス 理事長
岡本 茂雄	国立研究開発法人 産業技術総合研究所 招聘研究員
佐伯 剛	株式会社かぜたび舎 代表取締役社長
田中 滋	埼玉県立大学 理事長 慶應義塾大学 名誉教授
辻 哲夫	東京大学 高齢社会総合研究機構 未来ビジョン研究センター 客員研究員

平尾 雅司	セントケア・ホールディング株式会社 執行役員 品質企画本部 地域包括ケア推進室長
比留川 博久	国立研究開発法人 産業技術総合研究所 情報・人間工学領域 領域長補佐

(3) 監事 2名

(敬称略／五十音順)

氏名	所属
中田 ちず子	中田公認会計士事務所 代表
矢吹 華絵	株式会社福祉の里 代表取締役社長

6. 倫理審査委員(2021年6月30日現在)

(敬称略／外部委員は五十音順)

職位	所属・氏名
委員長	一般財団法人 オレンジクロス理事長 村上佑順
副委員長	一般財団法人 オレンジクロス事務局長 西山千秋
外部委員	鳥飼総合法律事務所 弁護士・公認会計士 岩崎文昭
外部委員	公益財団法人 明治安田厚生事業団 理事 山野美容芸術短期大学 教授 永松俊哉
外部委員	東京医療保健大学 医療保健学部 看護学科 地域看護学領域 助教 山本由加里

7. 職員等(2021年6月30日現在)

(組織編成・役職順／五十音順)

所属部門	役職 氏名
研究部門	非常勤研究員 吉江 悟
事務局	事務局長 西山 千秋
	事業企画部長 前田 実
	小倉 章子
	福田 真穂子

附属明細書

「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する事業報告の内容を補足する重要な事項はありません。

2021年7月

一般財団法人オレンジクロス